

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院食道外科での研修を終えて

金沢医科大学一般・消化器外科学

甲斐田大資

この度、2019年10月21日から11月2日までの2週間、日本臨床外科学会 国内外科研修制度にてがん研究会有明病院で手術研修に参加させていただきました。このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会 跡見 裕会長、国内外科研修委員会 高山 忠利委員長をはじめとした委員・スタッフの方々、また、学会期間中で大変ご多忙の中、小生の研修を受け入れてくださったがん研有明病院食道外科部長の渡邊雅之先生をはじめとするスタッフの方々には心より感謝申し上げます。特に試験等でご多忙の中、ご親切に案内して下さいました高橋慶太先生にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

がん研有明病院では、月曜朝にカンサーボード・火曜と木曜朝に消化器外科カンファレンスがあり、火曜日の夕方には部門別の症例検討会に参加させていただきました。カンサーボードは広々とした講堂にて臨床試験の進捗状況や、内科外科交えた症例提示等が提示され、研修中の提示はありませんでしたがハイリスク症例に関する手術の可否等も検討されているようでした。火曜・木曜の消化器外科カンファレンスでは予定手術の術前提示と術後報告が画像や病理写真に至るまでスライド1~2枚にまとめられ提示されており件数の多さに圧倒されたと同時にその簡潔で的確なプレゼンテーション手法は今後の診療に生かそうと思います。また、その期間中に施行された緊急手術に関しては詳細に提示・検討されわずか3時間前に終了した緊急手術の詳細な症例提示がなされていたことに驚愕しました。火曜日夕方のカンファレンスは食道癌症例に限定された腫瘍内科や消化器内科・内視鏡科・放射線科等横断的なカンファレンスであり、診療科間の距離を感じず多くの症例に関して検討されており重要なカンファレンスだと感じました。それに引き続き、食道外科単独で術前症例検討会があり、詳細な検討がなされていました。余談ではありますが、CT thin slice等を細かく動かし、浸潤の有無を詳細に検討するようなカンファは時間に追われている朝より気持ち的にも余裕がある夕方に行ったほうが活発に議論できて良いと感じ、自施設でも提案してみようと思います。

学会期間中ではありましたが食道手術は幸いにも2週間で6件の手術を見学させていただきました。開胸開腹手術からminimal invasive、2期的手術の2回目(再建)・頸部吻合や開胸・胸腔鏡での胸腔内吻合まで短い期間でしたが多種多様な手術を見学させていただき、食道外科手術が無い日には胃外科にてLDGやロボット支援下PPG・腹腔鏡下残胃全摘を見学させていただき、合計で70時間近い贅沢な時を過ごさせていただきました。

腹臥位時のクッションや支持板・離被架の位置や体位のセッティングからport挿入位置、気胸圧、術者・助手・スクラブナース・モニター位置等の基本的なことから、術者鉗子・助手鉗子の内外での動き、デバイスの使い分け等、拝見させていただいたことを書き始めたらキリがないのですが、特に反回神経周囲の郭清は一緒に見学していた海外の先生と共に見入って感銘を受けていました。三角吻合は全辺外反になるように工夫されており、複数回見学する機会があったためしっかりと学ばせていただきました。

今回の外科研修を通して、巷に出回っている手術動画では学べない細かな点を学べたことが良かったと感じますがメモした情報量が多すぎて今現在、整理されておらずこれから臨床で応用するにあたり想起し自分自身に定着させていこうと思います。それとは別に、high volume centerに短期間でも出入りすることで地方に働く身としては遠い存在であった有名施設の雰囲気を感じ取れたことがとても大

きな経験となりとても有意義な研修でした。今後もこの研修制度が継続されることを強く希望します。

期間中に渡邊先生よりお食事に誘っていただき、スタッフの皆様と留学の先生とも楽しい時間を過ごさせていただきました。帰路にて医長の今村先生より何をするにも先ずはチームを立ち上げることが重要だとの言葉をいただき、がん研有明病院食道外科の雰囲気が良いのはOne Teamで症例に挑まれているのだと感じました。

最後になりましたが、今回の研修に参加するにあたり快く送りだして下さった当科小坂健夫教授をはじめとする医局員の先生方にもこの場を借りて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。